

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

これからを担う私達

下郷町立下郷中学校 3年 白川 順姫

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

私はこの作文を書くにあたって、教科書の裏表紙を改めて見た。一冊一冊にこの言葉が書いてあった。そして〇円の金額。ふり返ると小学一年生から九年間、当たり前のように何気なく使っていたように思う。「無償」という言葉さえ希薄に感じられていた。義務教育が終わろうとしている今、税金について考えてみたいと思う。

私は驚きのデータを見つけた。「公立中学校の生徒一人当たり年間教育費の税金の負担額」なんと、約百万円を超えるというのだ。小学生は一人当たり年間約八十八万円。義務教育九年間で、合計約八百三十万円の計算になる。教科書ばかりでなく、教育施設の建設、机や椅子などの備品、教材代、いろいろなものに税金が使われていることに気がついた。

では、日本の税金の仕組みはどうなっているのだろうか。私は普段から百円ショップを利用している。確かに品物は百円だが、会計になると百八円になる。百円に対して八円、八パーセントの消費税。ということは、私達中学生も間接的とはいえ、税金を支払っていることになる。すなわちすでに納税者なのである。たとえそれが少しの金額でも、自分が支払った税金が、もしかしたら教科書代に当てられているのかもしれないと考えると、今までよりも教科書を大切に使いたいと思った。令和元年十月から、消費税は十パーセントに引き上げられる。しかし軽減税率制度も設けられ、飲食料品や新聞が対象となる。生活をする上で必須となるものは八パーセントのままだと知り、少し安心することができた。私達は税金の意味と使い道を理解し、これらを受け入れていく必要があると思う。

消費税の他に、私達にこれから深く身近な税金になるものの一つに所得税が挙げら

れる。これは個人の所得、利益に対してかかる税金で、毎年確定申告して納税する。給料や利益が多くなればなるほど段階的に税率が高くなる方法、累進課税が導入されている税金で、私達が働き出したら、必ず支払わなければならない直接税の一つである。そして、日本の税収の内訳の中でも多くの割合を占めている税金なのだ。今、人口が減少していく中で、もし働き手までもが減ったとしたら、一番問題視されるのではないかと私は考える。日本の財政を家計に例えてみる。働いて得た給料を上手に使わないと、家計は大変になる。それと同じように、国民から集めた税金を大切に上手に使ってもらうことが、私達の願いだ。

義務教育もあとわずか。働き出したら、私達には勤労と納税の義務がある。教科書に書いてあった「日本を担う」大人にならなければならない。だからこそ、税金への理解と関心を高め、税金に感謝し、日本を担う大人になるための努力を、日々していきたいと思う。